

第1回椎津川流域懇談会における主な意見と対応（1／2）

資料2

意見者	意見要旨	意見分類						課題	対応方針
		① 治水	② 自然 環境	③ 親水 利用	④ 維持 管理	⑤ 住民 協働	⑥ 啓発・ 広報		
田邊委員	・不入斗、片又木など、非常に <u>良い里山が残っている</u> 。公園の下の谷津がすばらしく、谷津につながる椎津の屋敷林は市原市内でも一番いい屋敷林である。水量の保全という観点では、 <u>谷津や屋敷林を保全すべき</u> である。	○						◆沿川や流域の自然環境の保全 ◆河川利用者のモラル向上	◆河道内及び沿川の自然環境の保全に努める。 ◆河川利用者への啓発活動を行っていく。
	・天神山古墳には <u>山地の植物がよく残っている</u> 。また、姉崎神社、小鷹神社の森には貴重なスダジイの並木がある。	○							
	・不入斗や片又木には <u>湧き水</u> があり、タコノアシのほかアゼナ類等の <u>水生植物が結構ある</u> 。河道改修の際には、これら <u>山際の保全に留意</u> してほしい。	○							
	・ <u>青葉台</u> は、もとは雑木林を住宅化した。あの <u>土手には在来植物で珍しいものがいっぱいある</u> 。	○							
	・公民館サークルの中で植物を見て回るものがあるが、 <u>後でこっそり草花を採取する人がいる</u> ので困る。	○					○		
高木委員	・説明資料の中に小学生が川に降りている写真があったが、現状は雨が降ると水がたまって、 <u>川の中に子供が降りるのは難しい</u> 。			○				◆水際へのアクセスの向上	◆水際に近づきやすい緩傾斜河岸や階段工などの整備を行っていく。
	・川を見るための桟橋についても、 <u>子供にとってはアクセスしづらい</u> と思われる。			○					
	・砂子橋の河口に向かって右岸側は <u>簡単に降りられない</u> 。ゴミがあっても拾いにいけない。ちょっとした <u>階段でもあれば</u> 、掃除はできる。			○	○				
安田委員	・昔は、 <u>大雨が降ると水がでます</u> よということで、永藤の生徒は早く帰るように言われた。	○						◆洪水の安全な流下 ◆市街化に伴う流量増 ◆河道の維持管理	◆河道拡幅、河床掘削により、洪水を安全に流下するための河道整備を行っていく。 ◆流域内の宅地造成等については、雨水貯留浸透施設の設置等、流出抑制施設の設置を促す。 ◆河川施設が常に適切な機能を発揮するように、除草や堆積土砂の除去等の維持管理を行う。
	・改修後の川は、雨が降ると上流から <u>濁流・ヘドロが流れてくる</u> 。	○			○				
	・通常は水が流れているところはわずかで、 <u>ヨシなどの草が水の流れを妨げている</u> 。	○			○				
	・椎津川とともに <u>片又木川も洪水時は危険区域</u> である。鴨川線を越える場合もある。	○							
	・田んぼは本来だと、中に溝があって、小さい川があって、洪水の流れる道があるが、迎田の田んぼには無い。今後、 <u>田んぼが住宅になると、浸水被害が増える</u> 。	○							
鈴木委員	・片又木川では、少しまとまった雨が降ると、ダイアパレスやガーデンコートから <u>多くの水が滝のように落ちてくる</u> 。統計的な数値以上の実感がある。	○						◆洪水の安全な流下 ◆市街化に伴う流量増 ◆住民説明	◆河道拡幅、河床掘削により、洪水を安全に流下するための河道整備を行っていく。 ◆流域内の宅地造成等については、雨水貯留浸透施設の設置等、流出抑制施設の設置を促す。 ◆第2回流域懇談会の事前に説明を行った。
	・昔は川で泳ぎもしたし、釣りもしたし、親子ともども <u>憩いの場であったし、遊びでも学びの場でもあった</u> が、最近では、 <u>ちょっと雨が降ると危険な区域</u> となっている。いい河川になって、いい生活、安心できる生活が実現できるようにお願いしたい。	○		○					
	・昔は山や畑だったので、雨が降っても大分地面に浸透していたものが、 <u>今はコンクリートやアスファルト</u> になっているところが多く、 <u>流出量が多くなっているように感じる</u> 。ダイアパレスからの洪水も、片又木に大きな管で排水されており、ちょっと集中的に降った夏の雨でも、河川の水量は見る見るうちに増加する。道路がヘアピンで蛇行しており、そこが流れのネックになっている。	○							
	・ <u>永藤を通る川が狭く、蛇行</u> しており、桜台や片又木の水量が一気に合流すると、吐き切れない状況。10分単位で <u>どんどん水位が上が</u> り、一面、湖のようになる。	○							
	・次回流域懇談会までに、 <u>整備計画案を地権者に説明</u> してもらいたい。	○					○		
		○							

第1回椎津川流域懇談会における主な意見と対応（2／2）

意見者	意見要旨	意見分類						課題	対応方針
		① 治水	② 自然 環境	③ 親水 利用	④ 維持 管理	⑤ 住民 協働	⑥ 啓発・ 広報		
切替委員	・子供の頃は泳いだり、川遊びもした。 ・今は(防水のためか)草が生えていないところも多いが、昔はスカンボという植物をつまんで食べたりもした。今は学校でも、川は危険なので遊ばないように、と言っているのがもったいない。 ・町会の活動の中で、年に数回、ゴミ拾いをやっている。椎津川に沿った砂子地区は活動が熱心。4町会で草刈りをしたりもしている。			○				◆親水利用の促進 ◆草刈り・ゴミ拾い	◆水際に近づきやすい緩傾斜河岸などの整備を行っていく。 ◆地域住民・団体が行う草刈りやゴミ拾い、植栽などの河川美化活動を支援する方策について検討する。
佐久間(光)委員	・15～16人のメンバーで、アネッサの向こう側に、毎年、コスモスや菜の花をまいていく。花が咲く時期には、食べ物を持ってきて楽しんでいる人たちもいる。ミニトマトなども自由にとってもらっている。 ・8月頃、除草剤をまかれてコスモスが一部だめになった。 ・入るところの階段では、耕運機が重く、おろしにくい。板を敷いてやっている。 ・道路沿いのゴミが非常に多い。地域で2ヶ月に1回程度集まって缶拾いなど行っているが、限られた地域になっている。環境はきれいな方が良い。		○			○		◆河川環境整備 ◆ゴミ拾い ◆親水利用の促進	◆地域住民・団体が行う草刈りやゴミ拾い、植栽などの河川美化活動を支援する方策について検討する。 ◆水際に近づきやすい緩傾斜河岸などの整備を行っていく。
国安委員	・以前に椎津川をテーマにしたタウンミーティングを開催し、椎津川流域をもっと親しめる場所にならうと話したことがあり、それが現在の川辺の環境づくりや花づくりの活動につながっている。 ・市原市民は、河川と言えば「養老川」に目が向きがちで、身近な椎津川の存在が、あまり意識にない。椎津川は遊んだり、親しんだりする場所が少なく、タウンミーティングに参加している人たちは、非常に関心が低い。 ・20年ぐらい前は、ザリガニ、ホタル、ヒメダカなどもたくさんいて、川に子供達を遊ばせる環境があった。 ・近年、産廃の不法投棄等もあり、それが谷地田の方に流れ込んで、農業をやってらっしゃる人たちが御苦労されたと聞いている。この20年間で大きく環境が変わった。 ・水辺に親しめる機会、プログラムづくりを提供していけば、椎津川に対して「ふるさと意識」を感じてもらえるようになるのではないかな。 ・養老川の農村公園で毎日ゴミ拾いを実施していたら、地域の人たちが自発的にゴミ拾いや草抜きを行うなど、意識が高まってきた。椎津川でも、地域住民が自ら参加できるような整備活動が出来ればいい。 ・片又木周辺は、青葉台や泉台からも、最近、散策者が増えている。水辺にそういった植物が多くあることを知れば、興味を持って保護の方向にも向かうと思う。 ・アネッサを拠点にして、子供たちのネイチャークラブの皆さんが川とかをフィールドにして、定期的に自然観察活動を行っている。このような活動を通して、自然環境に対する意識を高め、環境保護につなげていくことが大事。	○				○	○	◆河川への意識の高揚(河川愛護活動) ◆河川環境整備 ◆環境学習の推進	◆河川利用者や流域住民に対し河川愛護活動等を通じて、河川への意識の高揚を図っていく。 ◆地域住民・団体が行う草刈りやゴミ拾い、植栽などの河川美化活動を支援する方策について検討する。 ◆環境学習等、地域住民が水辺と親しめる機会を設けるためのしくみづくりや支援体制の整備について検討する。
佐久間(隆)委員 (代理:星野土木部長)	・今取り組んでいる事業の1つとして、片又木川合流点から上流の河川改修の延伸を大きなテーマとしている。 ・川間橋下流両岸の管理用通路兼用の市道を、どういうふうにして旧河川敷を利用して地域に親しまれる空間をつくるか、地域の方々の意見を伺いながら取り組んでいるところである。 ・片又木川合流点より上流において、昨今の都市型集中豪雨により、洪水時の急激な水位上昇が発生していることは十分認識している。いち早く洪水情報を提供するなど、避難誘導をするような体制をとっている。今後も県の市原整備事務所と十分に連絡を取り合って、情報をいち早く住民の方々に伝える体制をとっていく。	○						◆河川整備の促進 ◆親水空間整備 ◆住民協働 ◆情報公開 ◆危機管理対策	◆県と連携し、流域の治水安全度の向上に取り組んでいく。 ◆流域住民の意見を伺いながら親水空間整備の方向性を検討していく。 ◆県と連携し、HP等を通じて洪水情報の公開や、避難誘導体制を維持していく。